

## ゲル電気泳動法によるフグ種の鑑別

數田行雄

生物物理化学, 第37卷5号, 319~323(1993)

骨格筋及び硝子体液のタンパク質とLDHの電気泳動像を比較することにより, サバフグ属4種(クロサバフグ, シロサバフグ, カナフグ, ドクサバフグ)の種の鑑別を行った. 骨格筋及び硝子体液のタンパク質は, PAG-IEFにより分離し, LDHアイソザイムは, アガロースゲル電気泳動法により分離した. 骨格筋及び硝子体液のタンパク質泳動像は, カナフグを除く3種では互いに異

なっていた. 硝子体液のLDHザイモグラムは, 4種に特異的であった. 更に, 硝子体液は, 魚に損傷を与えることなく容易に採取可能であった.

以上の結果から, 硝子体液のLDHザイモグラムの比較は, 魚の商品価値を損なうことなく, これらサバフグ属4種を鑑別するのに有用な方法である.

## トラフグの貯蔵方法が骨格筋及び眼球硝子体液のタンパク質とLDHアイソザイムの電気泳動像に及ぼす影響

數田行雄・板垣国昭・河村 章  
遠藤隆二

日本水産学会誌, 第59卷10号, 1749~1755(1993)

簡便なフグ種鑑別法の基礎的条件の決定のため, トラフグ骨格筋及び眼球硝子体液のタンパク質をPAG-IEF法, LDHをアガロースゲル電気泳動法により分析した. タンパク質泳動像及びLDHザイモグラムは, 両組織共に個体差が認められない. 骨格筋のタンパク質泳動像と

LDHザイモグラム及び硝子体液のLDHザイモグラムは, -20℃貯蔵で24週まで変化せず, 種の鑑別に用いることが可能であろう. 硝子体液は, 魚体に大きな損傷を与えず採取可能で, 種の鑑別試料として有用であろう.